

**(仮称)青森市子ども総合プラン策定にかかる
アンケート調査結果報告書**

<⑥ 認定こども園・幼稚園・保育所(園)・学校等>

**令和6年3月
福祉部 子育て支援課**

目次

1 調査の概要	
調査の概要	1
調査区域表	2
調査票の回収結果	3
2 調査結果	
問1 所属団体について	4
問2 所属団体の子どもに関する活動内容について	5
問3 活動を効果的に進めるために必要なことについて	6
問4 子ども自身、家庭、地域社会に望むことについて	6
問5 子ども・子育てに関するご意見・ご要望について	8
3 自由記載欄の意見一覧	9

1 調査の概要

調査の概要

1 目的

新たな「(仮称)青森市子ども総合プラン(令和6年度～令和10年度)」の策定にあたり、急速な少子高齢化の進行、家庭及び地域を取り巻く環境の変化に対応した次世代育成支援対策を総合的かつ継続的に推進するために、市民ニーズを把握・分析し、新プランに反映させる。

2 調査票及び対象者数

調査対象	対象者数
①乳幼児の保護者	959件
②小学生の保護者	1,221件
③小学校4～6年生	674件
④中学校1～高校3年生	1,506件
⑤地域・子ども関連団体	301件
⑥認定こども園・幼稚園・保育所(園)・学校等	219件

※①と②、③と④はそれぞれ合計2,180人

3 調査期間

令和5年12月15日(金)～令和6年1月15日(月)

4 調査方法

調査対象に応じたアンケート調査票を送付し、下記の2通りの方法で回答。(無記名)

- ①同封した返信用封筒による郵送での回答
- ②WEBフォームからの回答

5 報告書の見方

- ① 比率は全てパーセント(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したため、パーセントの合計が100にならない場合がある。
- ② 複数回答が可能な設問では、比率算出の基数は回答者数(票数)とし、その項目を選んだ人が全体からみて何%なのかという見方としているため、各項目の比率の合計が100%を超える場合がある。

調査区域表

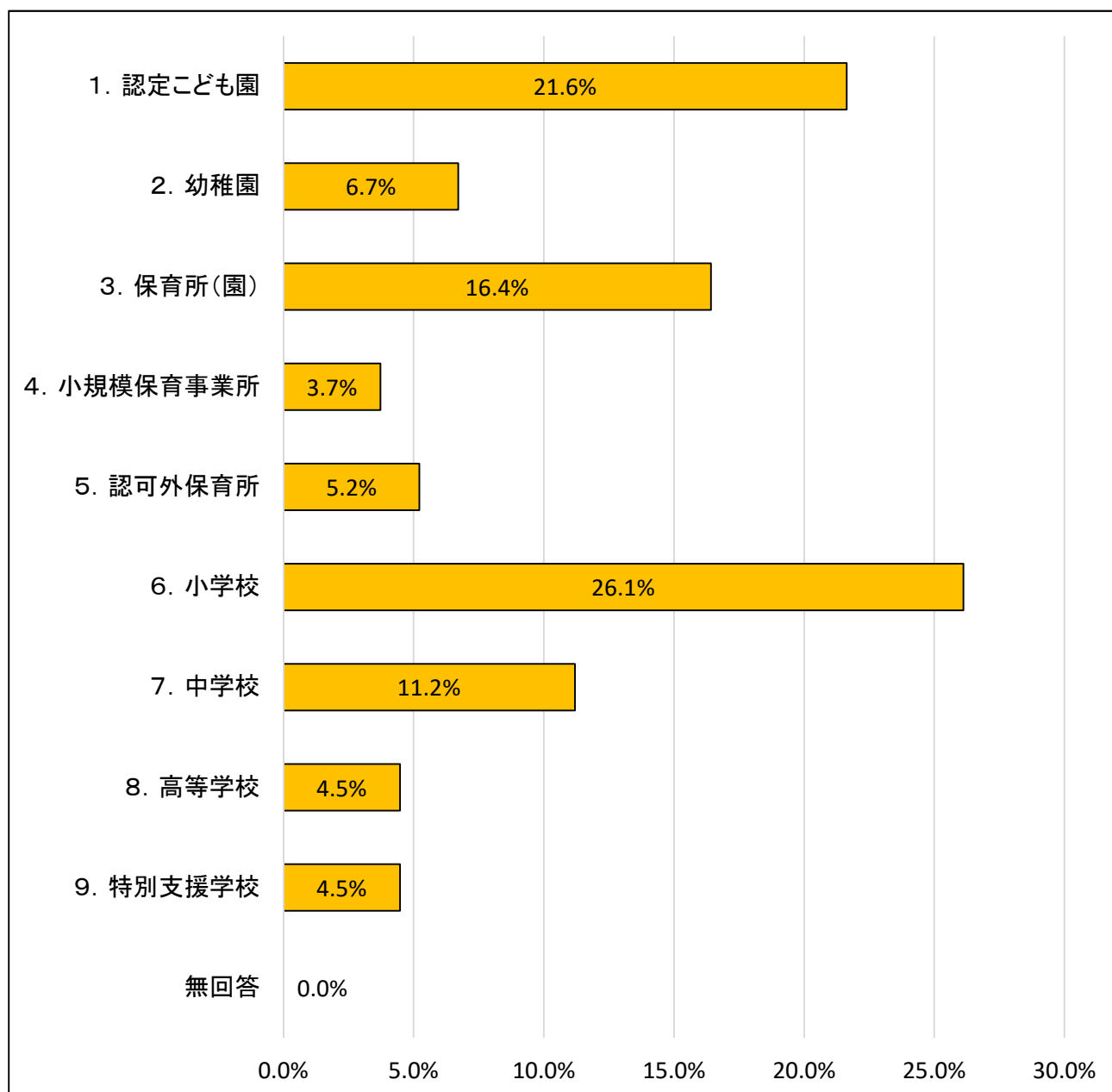
番号	区域名	区域住所
1	東部地区	浪打、港町、茶屋町、栄町、合浦、花園、はまなす、けやき、造道、岡造道、東造道、八重田、小柳、古館、松森、佃、中佃、南佃、大字野内、大字久栗坂、大字浅虫、大字宮田、大字馬屋尻、大字三本木、大字滝沢、大字矢田、矢作、本泉、原別、大字原別、大字平新田、大字後菴、大字泉野、大字矢田前、大字八幡林、大字戸崎、大字諏訪沢、大字築木館、大字桑原、虹ヶ丘、浜館、自由ヶ丘、大字戸山、大字沢山、大字駒込、大字浜館、大字田屋敷、大字古館、赤坂、蛭沢、月見野
2	南部・中部地区	堤町、青柳、橋本、中央、本町、松原、勝田、桂木、緑、青葉、筒井、長島、古川、新町、安方、金沢、旭町、大字筒井、大字浦町、大字浜田、大字幸畑、大字田茂木野、東大野、浜田、桜川、奥野、幸畑、西大野、大字大野(字金沢、字鳴滝を除く)、大字細越、大字安田、大字横内、大字雲谷、大字四ツ石、大字大矢沢、大字野尻、大字合子沢、大字新町野、大字牛館、問屋町、卸町、第二問屋町、妙見、大字高田、大字大谷、大字小館、大字入内、大字野沢、大字荒川、大字八ツ役、大字金浜、大字大別内、大字野木、大字上野
3	西部・北部地区	柳川、北金沢、千富町、沖館、富田、新田、篠田、千刈、久須志、大字大野字金沢、大字大野字鳴滝、石江、西滝、里見、浪館前田、大字西滝、大字三内、大字浪館、大字岩渡、大字孫内、大字新城、大字岡町、大字石江、大字戸門、大字鶴ヶ坂、三好、大字油川、大字羽白、大字西田沢、大字飛鳥、大字瀬戸子、大字奥内、大字前田、大字清水、大字内真部、大字四戸橋、大字後潟、大字六枚橋、大字小橋、大字左堰
4	浪岡地区	大字浪岡、大字五本松、大字王余魚沢、大字女鹿沢、大字下十川、大字増館、大字樽沢、大字銀、大字郷山前、大字吉野田、大字下石川、大字杉沢、福田、大字高屋敷、大字徳才子、大字大釈迦、大字長沼、大字北中野、大字吉内、大字本郷、大字相沢、大字細野

調査票の回収結果

対象団体	送付数	有効 回収数	回収率
認定こども園	49	29	59.2%
幼稚園	12	9	75.0%
保育所(園)	50	22	44.0%
小規模保育事業所	8	5	62.5%
認可外保育所	18	7	38.9%
小学校	42	35	83.3%
中学校	19	15	78.9%
高等学校	13	6	46.2%
特別支援学校	8	6	75.0%
合計	219	134	61.2%

2 調査結果

問1 あなたの所属団体について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

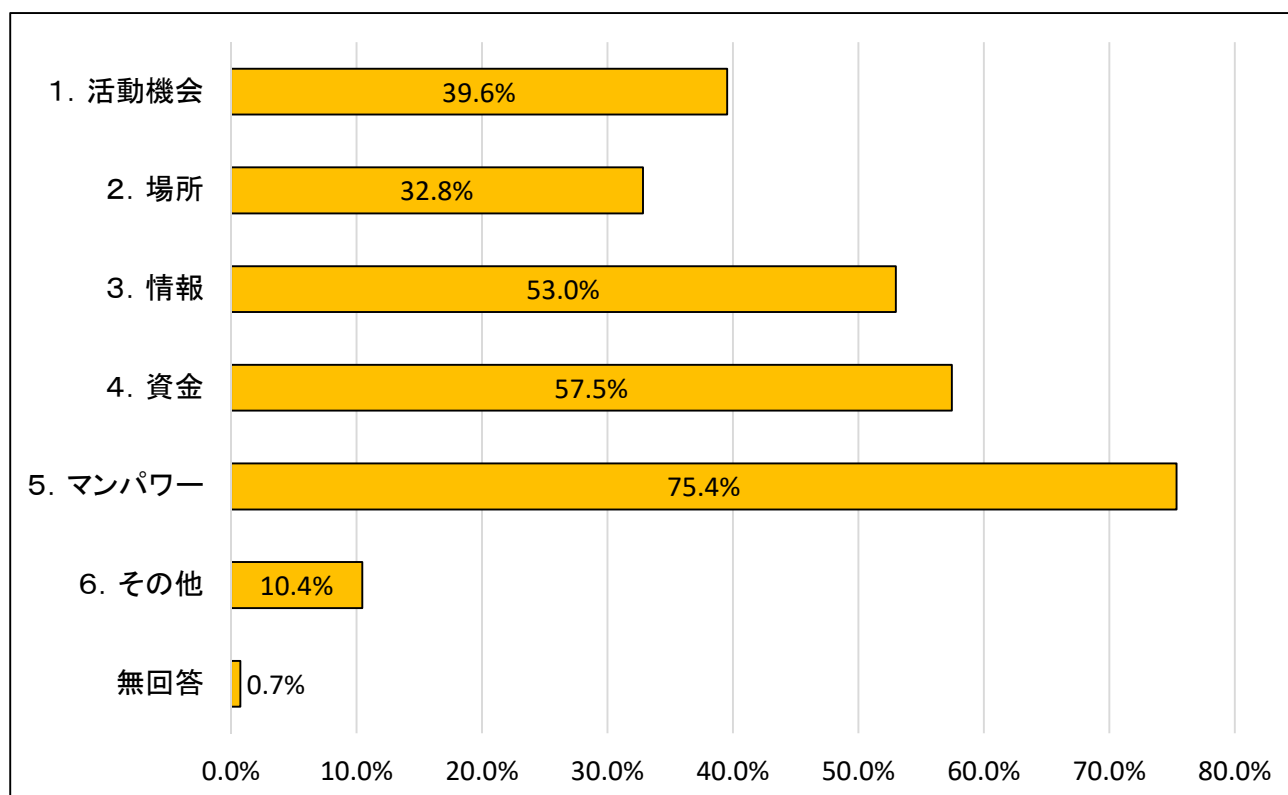


※アンケート回答者134人(全員)に対する割合

問2 あなたの所属団体では、地域の子どもや子育て家庭に対し、どのような取組をしていますか。

区分	活動内容
認定こども園	子育て相談、子育てに関する情報の提供、施設開放(親子交流の場、講座の開催など)、地域活動への積極的参加など
幼稚園	子育て相談、子育てに関する情報の提供、施設開放(親子交流の場、講座の開催など)、地域活動への積極的参加など
保育所(園)	子育て相談、子育てに関する情報の提供、施設開放(親子交流の場、講座の開催など)、地域活動への積極的参加など
小規模保育事業所	子育て相談、子育てに関する情報の提供、地域活動への積極的参加など
認可外保育所	子育て相談、子育てに関する情報の提供、地域活動への積極的参加など
小学校	施設開放、地域活動への積極的参加、PTAによる親子交流イベント等の実施、子育てに関する情報の提供、教育相談など
中学校	施設開放、地域活動への積極的参加、PTAによる家庭教育学級の実施、教育活動に関する情報の提供、教育相談など
高等学校	施設開放、地域活動への積極的参加、地域の保育所等との交流など
特別支援学校	教育相談、地域活動への積極的参加、子育てに関する情報の提供、学校見学会など

問3 問2の取組を効果的に進めるためには、何が重要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



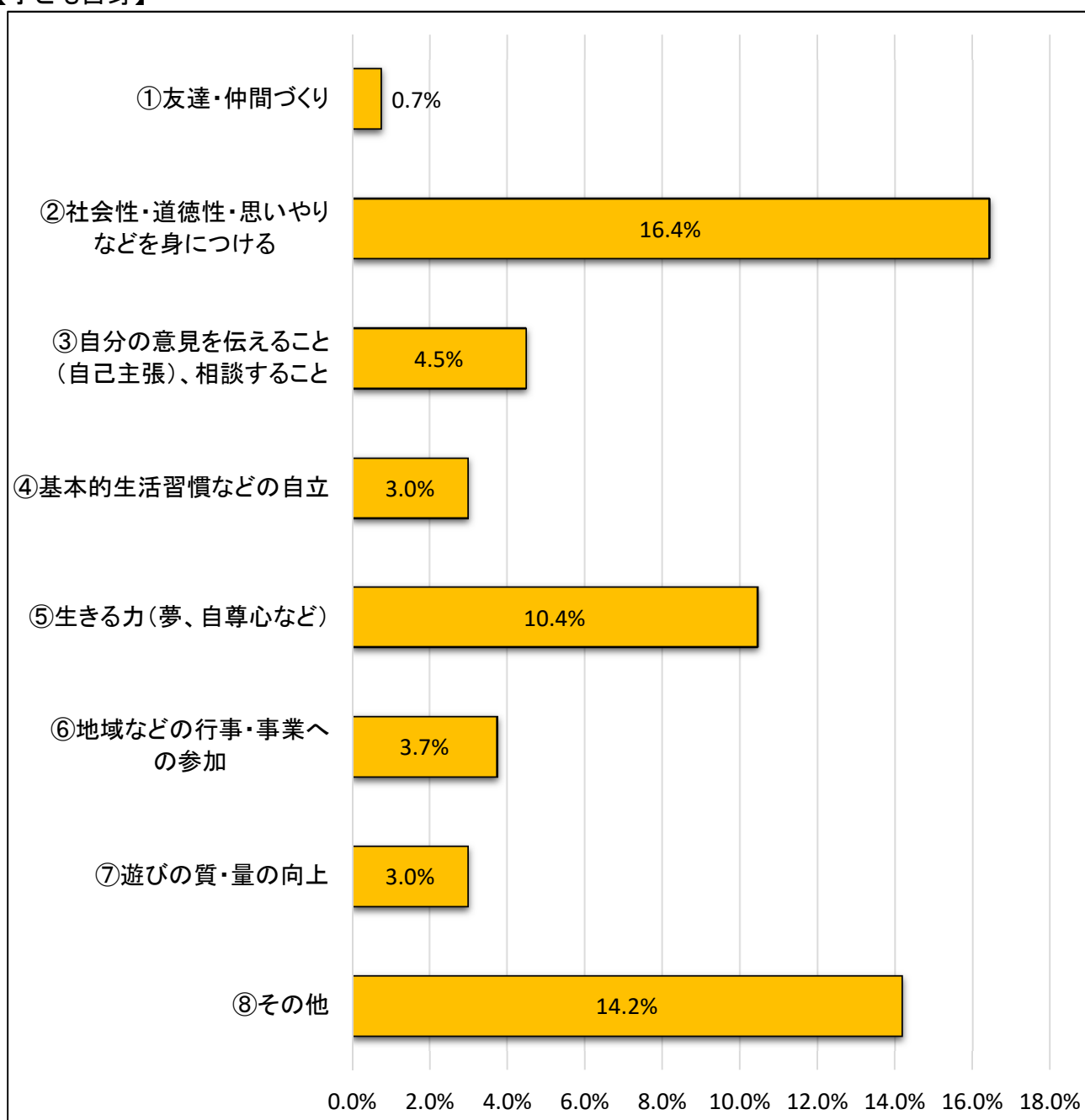
※アンケート回答者134人(全員)に対する割合

【その他内訳】

- ・ 関係機関との連携・情報共有(9)
- ・ 活動の時間を取りづらい
- ・ 交通手段
- ・ 子育てに対する社会の在り方
- ・ 準備の要する期間
- ・ 効果的に進める必要はない

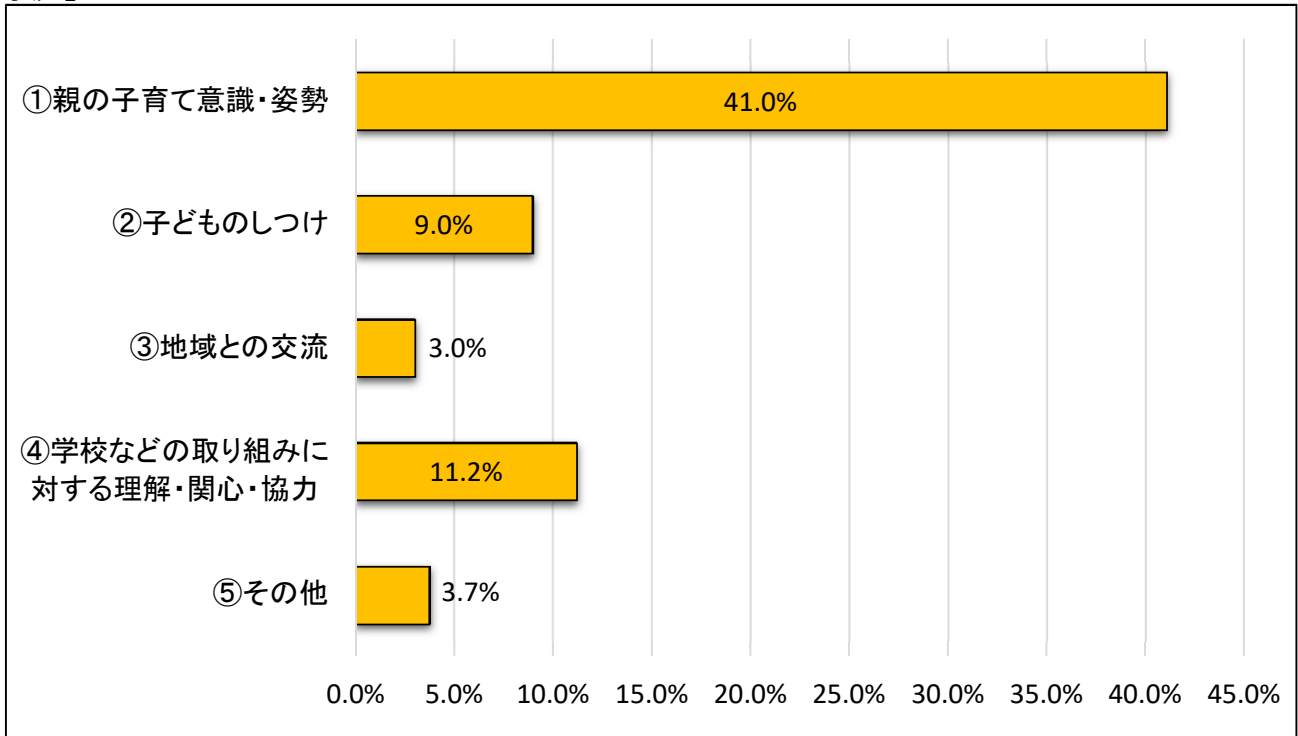
問4 子ども自身、家庭、地域社会に求めたいこと、望むことがありましたら、ご記入ください。
【自由記載】

【子ども自身】



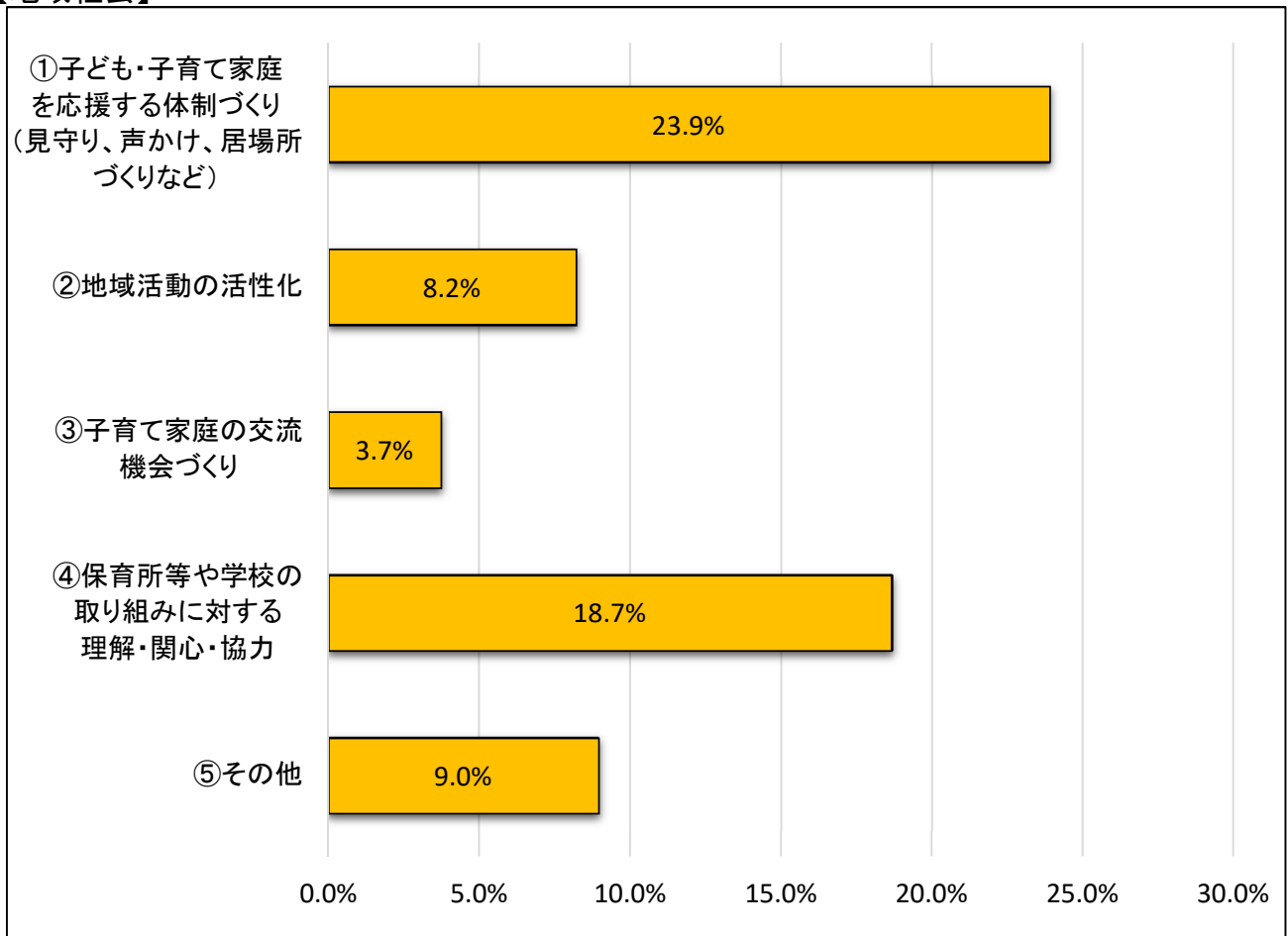
※アンケート回答者134人(全員)に対する割合

【家庭】



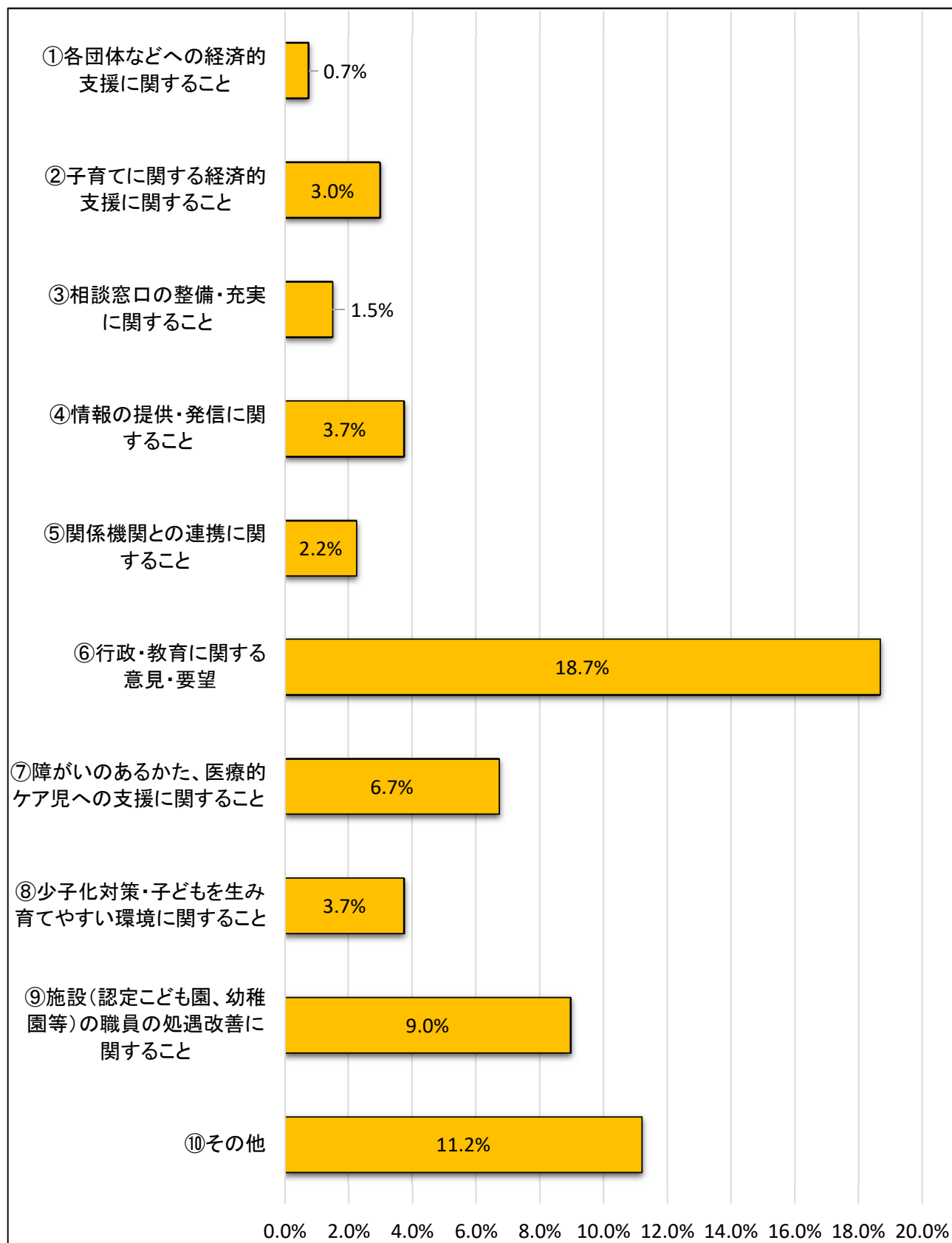
※アンケート回答者134人(全員)に対する割合

【地域社会】



※アンケート回答者134人(全員)に対する割合

問5 子ども・子育て支援に関するご要望、ご意見がありましたら、ご記入ください。【自由記載】



※アンケート回答者134人(全員)に対する割合

3 自由記載覧の意見一覧

問4【自由記載】(子ども自身)

①友達・仲間づくり	
1	たくさん遊び、子ども同士の交流を深めてほしい。
②社会性・道徳性・思いやりなどを身につける	
1	核家庭が多く、もっと社会性を身につける機会を増やす。
2	元気なあいさつ
3	地域の一員としての自覚(つけさせたい力)
4	思いやりの心、道徳心、ボランティア精神
5	自己中心的な考え行動からの脱却と相手への思いやりの醸成
6	自主的、協働的に行動できる力を身につけること。
7	地域の方々への感謝の気持ちを持つ。
8	規範意識の向上
9	人とのコミュニケーション力をつけてほしい。
10	人の話を聞けるようになってほしい。
11	感じたことを行動に移せる(自分から仲間を誘う等して、率先して行動できる)人になってほしい。
12	素直な心、チャレンジ精神
13	自分が地域の一員であるという自覚。自制心。自立心。自律心。そして、多くの人のお世話になって今の自分が存在しているという、当たり前有難さをわかってほしいと思います。
14	思いやりの心、判断力
15	判断力
16	自分や周囲の幸せのために行動できるようになってほしい。
17	人との関わりから、たくさんのことを学んでほしい。
18	・家族の一員として、家族を大切に作る気持ち ・家族への感謝の気持ち
19	積極性
20	思いやりを身に付け、正しい判断で行動すること。
21	周りとの協働しながら、未来を切り拓く力
22	公正公平な態度
③自分の意見を伝えること(自己主張)、相談すること	
1	自分で考える力、考えたことを伝えられる力
2	伸び伸びと自分を表現してほしい。
3	人前でしっかり話ができる力
4	困っていることがあれば周囲に遠慮なく相談する。(環境を社会、学校が作っていく)
5	学習した内容を身に付け、それを活用してよく考え表現すること。
6	一人で抱え込まず、困ったことがあれば周りの大人に伝えてほしい。
④基本的な生活習慣などの自立	
1	規則正しい家庭生活
2	基本的な生活習慣を身につけてほしい(食事、睡眠、挨拶等)
3	基本的な生活習慣を守る(早寝、早起き、学習時間を守る、やれることは自分でやる等)ことを大切
4	望ましい生活習慣を身に付け、粘り強く運動すること の向上
⑤生きる力(夢、自尊心など)	
1	その子らしさを大切に。
2	自己肯定感、少々のことではへこたれない逞しさ。
3	夢をもち、頑張ること。
4	めまぐるしく変わる環境下での適応力
5	将来の夢(職業等含む)について、自分なりの考えや思いをもってほしい。
6	子どもが健康にのびのびと生活していく中で、集団生活や家庭生活を通して「生きる力」を身に付け
7	豊かな心、健やかな体、生きる力の習得
8	夢をもち、たくましく生きる力
9	自分自身を大好きな子に成長してくれたらと願います。

10	たくましく育てほしい。
11	たくましさ
12	生きる力
13	夢を持ち、夢に向かってチャレンジしていく精神
14	夢と志をもって、目標に向かって努力してほしい。
⑥地域などの行事・事業への参加	
1	親が来ようとしなければ、子どもは来られないからどうにもならない。
2	進んで地域の行事に参加しようとする態度。
3	自分のよさや可能性を伸ばすために、様々な活動に積極的に参加してほしい。
4	学校の働きかけ以外にも、自主的に地域の活動に参加してほしい。
5	地域行事への積極的な参加
⑦遊びの質・量の向上	
1	元気に遊ぶことが園児には大切なこと。子ども同士の遊び、自然の中での遊び、遊びを考える子どもになってほしい。
2	子どもたちは降園後ゲームをしたり、ユーチューブを見て過ごしているのが気になります。もっと人と関わる遊びをしてもらいたいと思っています。
3	自然に触れて、さまざまな人と関わりながら、伸び伸びと遊び、子どもらしく過ごすことを楽しんで欲しい。
4	色々な子どもとの遊ぶ時間や体験をたくさん作ってあげる。
⑧その他	
1	インターネット利用に費やす時間が増えて(増えたような気がして)、健康な生活を送ることができなくなっている。→健康で元気に過ごしてほしい。
2	狭い地域で育てている為、もっと広い視野で成長してほしい。
3	男らしく、女らしく生きて下さい。
4	ありのままよい。(しかし人工物、化学、科学物質があふれ不自然な環境下におかれている。)
5	元気に明るく過ごす。
6	交流の場の確保
7	様々な経験を通して気づき、感じる事で、年齢、月齢関係なく、子ども達に保育を通して感じられるようにしたい。
8	15年後故郷に恩返ししたいと思える環境で成長してほしい。
9	日々、楽しみながらのびのびと園生活を送ってほしい。
10	安全で子どもの人権がしっかりと守られる中、のびのび育てていただきたい。(たくさんの経験値を重ねながら)
11	確かな学力、健康な体
12	よく学び、よく遊ぶこと
13	郷土に関心を持ち、郷土を愛する心
14	自己教育力 活動を通して学校教育活動を通して身に付けさせたい。
15	親子遠足等で雨天の場合困っています。市内に屋内遊技施設(飲食可)が殆どないということです。安価で気軽に使用でき、子ども達が集える屋内遊技施設を望みます。
16	のびのびと育てほしい。
17	青森高校のSSH事業等に興味を持ち、上記の各取組に参加することで、自身の進路・将来について考える一つのきっかけにしてもらいたい。
18	何事にも一生懸命取り組むこと。
19	保護者の方と一緒に参加し、こども園の様子を知り、園の活動を楽しんでほしい。園の子ども達・他のお子さんとも触れ合ってもらいたい。

問4【自由記載】(家庭)

①親の子育て意識・姿勢(コミュニケーション、家庭教育力の向上など)	
1	過干渉になりすぎない。
2	強くたくましい子に育てて下さい。
3	子育ての基本は家庭です。学校に全てをまかせるがために、学校はブラック化します。
4	世の流れにのって余裕がない。手作り食品, 手作り遊具(オモチャ), 子育ての外注…。少なくならないかな。
5	・様々な体験を子どもにさせてほしい。(動画ではなく実体験を) ・特に自然に触れさせてほしい。
6	子どもとの時間をもう少し作ってほしい。
7	我が家がオンリーワンから、地域社会の中にある我が家へと考えの転換
8	子育てに悩んだときは、園をどんどん利用してほしい。
9	孤立を避けるように所属をもつようにする。
10	家庭内での子供への愛情
11	学校と家庭との役割分担
12	休日は家族でゆっくり家に居ることはなく、大型ショッピングセンターなど色々連れて行って過ごしているようですが、子どもといっぱい遊んであげたらいいのにとする時もあります。
13	安易に学校を休ませないこと。
14	もう少し、忙しい中でも子どもとの時間をとってもらいたい。
15	保育園まかせにならずに、共に子どもたちの成長のサポートができるように、寄り添ってほしい。
16	教育を幼稚園や学校に任せるのではなく、家族との団らんの中で愛情を持って子どもと関わってほしい。
17	子どもと一緒に過ごす。日常生活をみせる。ルールを作る。
18	あたたかく愛情をもって見守ってほしい。
19	家庭の教育力の充実。なんでもかんでも学校に任せきりにしない。
20	学校から伝えられるものをもとに、子どもの活躍する様子を話題として家族の団欒の場を設けてほしい。
21	何でも話せる家庭。(地域にも)
22	・子どもと遊ぶ時間をとってほしい。 ・絵本に親しみ、親子のつながりを深めてほしい。
23	仕事等が忙しく、家庭内での関わりが徐々に薄くなってきている面もある。家庭での触れ合いを大切にしてほしい。
24	家庭教育力の向上
25	家庭の教育力
26	子どもの自己肯定感、自己有用感を育む接し方
27	将来の夢について話し合う機会を頻繁に設け、子どもに職業観や学習の重要性を伝えてほしい。
28	”安心”して””楽しく”子育てができるよう、誰もが気軽に参加できるイベントや相談できる場所、人を利用してほしい。
29	子育て力の向上
30	子どもたち一人一人の情緒の安定のためには、家庭の教育力にまさるものはありません。せめて、朝夕の食事は、親子で食卓を囲み、和やかに会話できる場でありたいものです。
31	家庭が安全基地となるような環境づくり。
32	家庭内での虐待が行われることなく、大人のペースに子どもが合わせるのではなく、子どもの育ちに目を向け、安心して育つ環境づくりが必要と思われる。
33	困った時は1人で抱え込まず、相談して欲しい。母1人ではなく、父の子育ても積極的に取り組んで欲しい。
34	家庭教育力
35	子供と過ごす時間を大切にしてほしい。
36	ビジョンを持つこと。
37	子どもの理解

38	子の教育は、家庭が第一義的責任を有するものであることを自覚してほしい。
39	子どもは社会で育てるというが、子育て、躰等、食事も教育保育施設や学校が、朝から晩まで、月曜日から土曜日、休みなくなんでもやってくれて当たり前、無償が当たり前という考え、支援や支援金をもらうの当然という考え方を考えてもらいたい。親中心でなく、子どもが何を求めているのか考えてもらいたい。
40	子どもの可能性を信じ、認めてほしい。困ったら、声をあげて周りの人を頼ってほしい。
41	子どもの見え方に関する相談機関として、盲学校があることを知ってほしい。
42	・子供と一緒に過ごす時間をつくる ・家族でたくさんの思い出を作れるように、活動と一緒に参加
43	まずはルールなどを守ってほしい。支援してあげたいとは思いますが、支援する側も無償でどこまでも、なんでもできるわけではない。
44	思いやり
45	青森市子ども総合プランに係る事業の積極的情報収集及び参加
46	子供の自立を促す関わり
47	子育てにおける家庭(保護者)の役割が重要であることの認識を高める。
48	家庭教育力の向上
49	家庭教育力
50	社会性を身に付けさせる教育力
51	家庭の教育力向上
52	愛着関係を十分に育ててほしい。
53	他の方々との子育ての情報をとる。
54	我が子の目標に向けたサポートの充実 家庭における指導範囲の拡大と充実
55	食事の大切さを知り、朝食を必ず食べさせてほしい。また、自分のお子様とのコミュニケーションを多くとってほしい。
②子どものしつけ	
1	しつけ
2	しつけ、基本的生活習慣
3	生活に必要な基本的なことの生活習慣をもう少し身につけるようにしてほしい(寝る時間や起きる時間、朝食を食べるなど)
4	基本的生活習慣を身に付けさせること。
5	家族が本来果たすべきこと(生活習慣、善悪の判断、社会的なマナー等)を、しっかりと家庭で教育してほしい。
6	愛情をもって子育てし、しつけができる。
7	学習習慣、しつけをしっかりとやること。
8	肥満、虫歯予防 早寝早起き、朝ごはんの習慣
9	子どもが小さいうちは基本的生活習慣を大切にして、親中心の生活ではなく子ども中心の生活を心がけていただきたい。
10	しつけ・きまり・判断について保護者の役割として身に付けさせたい。
11	基本的生活習慣(しつけ含む)確立の継続的な支援。
12	良い悪いの区別をしっかりと教えてあげる。
③地域との交流	
1	地域へは回覧板を使用し周知しているが、もっと積極的に参加してほしい(まだ、コロナ等の心配があり、なかなか人の集まる場所に出ない)そもそも地域に孤立している家庭があるかどうかわからない。
2	地域との交流を多くする。
3	コロナ禍で人と関わる力が弱まっている。
4	困ったことがあったら地域にサポートしてもらえよう、地域との関わりをもってほしい。
④学校などの取り組みに対する理解・関心・協力	
1	学校に過度な要求をしないしてほしい。
2	地域、学校との連携、協力姿勢

3	できる範囲での参加協力
4	地域との連携
5	PTA活動への協力
6	PTA活動に参加することで、子どもの様子を見たり、保護者同士の交流を深めてほしい。
7	園と家庭で一緒に子育てしてることへの協力
8	地域にある施設への興味や関心を持ってもらうこと。
9	子どもたちの活動を支える立場として協力及び支援をいただきたい。
10	積極的な参加意識・姿勢
11	学校と協働して行ってほしい。
12	学校、地域社会と協力しながら子どもの成長を支援してほしい。
13	本校在学中の生徒の家庭について、「学校(教職員)とともに子どもを育てる」というスタンスで、より一層の理解と協力をお願いしたい。
14	協力
15	お子さんと一緒に来園し、園の活動を楽しんでほしい。子育てで悩むことがあったら、活動に参加しながら、声をかけてもらいたいし、電話など個別相談にも対応できるので、気軽に声をかけていただきたい。
⑤その他	
1	同居家庭が多いので、昔ながらの事も経験してほしい。
2	勤務時間の多様化、ワンオペ育児等で身近に頼る人がいない保護者への支援が、保育園だけではおぎなえていない今、保育サービスにも様々なサービスが必要だと思う。
3	気になる子がいる家庭の相談場所、窓口、各種機関との連携と接続の強化
4	子育て者への資金、時間、施設等の援助
5	子育て家庭への支援、特に乳幼児を抱える家庭は両親共に若い世代であり、収入も低所得世帯が多いため、子育てにかかる費用負担(0歳児はオムツ等の無償配布)、未満児保育料の軽減措置(無償化を目指して)

問5【自由記載】(地域社会)

①子ども・子育て家庭を応援する体制づくり(見守り、声かけ、居場所づくりなど)	
1	子どもへの支援
2	他を責めるのではなく、日本古来のやさしいおもてなしの心の高揚。
3	子どもや家庭が困っていたら、助けを求めやすい地域。その為に課題を発見し解決につなげられる地域。
4	子育て支援策の充実
5	地域も子どもを育てる場という認識
6	子ども達の声がうるさい事等、温かい目でみてもらいたいです。
7	・子育てがしやすい環境になればいいと思う。 ・近隣住民の園への理解が深まってほしい。
8	社会全体が忙しく、ゆったりと時間のとれない子育てがあるように感じています。せめて3歳までは十分に関われる時間がほしいですね。そんな時間があれば、社会活動にも色々な方が参加できるようになるのでは？
9	保育所等に入っていない子どもの家庭への声掛け(出産後、助産師や保健師の家庭訪問みたいな)ことをもっと定期的に。それ以降も。
10	車や水路など危険箇所の見守りを可能な限りお願いしたい。
11	子どもたちや家庭を見守り、適切に関わる姿勢。
12	子どもの将来の職業観育成の場や機会を設けてほしい。
13	様々な立場の子どもを受け皿となる居場所。支え合う、助け合うコミュニティーの形成。
14	子どもが遊べる施設・場所・遊具を増やしてほしい。
15	子どもの施設であることへの理解、送迎時の駐車、子どもたちの騒音など。

16	子どもが活動できる場(地域の行事など)の設定・提供
17	子育てに悩む親を支える環境として機能してほしい。
18	子供、教育への関与
19	地域のコミュニティで子供を育てていく環境になってほしい。
20	子どもたちを対象としたイベント
21	登下校時の見守り(その時間に、家の前で作業する、犬の散歩をするなど不審者対応、交通安全に無理のない範囲で力を貸していただきたい)
22	家庭や学校、地域がつながりを深め、支え合いながらともに子どもを育てられる社会であってほしい。
23	思いやり
24	安全で安心して暮らせる環境づくりの継続
25	障害のある子への理解
26	「地域の子どもは地域で育てる」の考えのもと、地域の人材と学習資源を活用して、子どもの育成に携わってほしい。
27	社会教育力 自分の子どもでなくても「だめなものはだめ」と言える地域
28	子どもの成長を町内会など地域が見守り育てる環境作りをしてほしい。
29	子育て家族を寛容な心で見守ってほしい。
30	通学時の見守りや挨拶等の声かけ
31	小さい子どもが遊べる場で安全に一緒に育ててあげる社会。(昔のように)
32	見守り
②地域における活動の活性化	
1	積極性をもって広い地域の行事、人達に接し参加してほしい。
2	親子で参加できる地域行事や、ボランティア活動の充実
3	地域ネットワーク
4	地域行事への積極的な参加(高齢化、固定化を解消したい)
5	気軽に接することが出来る機会、場所が常時開かれている。
6	地域が色々なイベントを企画して各家庭に呼び掛けて行動するともっと活性化していくのではないかと思います。
7	ボランティアさんの高齢化が課題。
8	コロナ禍で人と関わる力が弱まっている。
9	地域活性化へ向けて、地域主体の行事及び活動等の機会を設定してほしい。
10	子どもも大人も安全に、安心して暮らせる活気ある地域づくり
11	人材バンクへの登録
③子育て家庭の交流機会づくり	
1	小さなイベントを増やし、世代交流の場を提供してほしい。
2	お互いを尊重し、認め合う環境作りであってほしい。
3	核家族が多い中、世代を超えた交流の大切さを感じます。今後も続けていきたい。
4	子供や親子の活動機会や場の設定
5	自然体験など家族と一緒に過ごせる活動や場所のサポート
④保育所等や学校の取り組みに対する理解・関心・協力	
1	これからも今までどおり、ご協力いただきたいです。いつもありがとうございます。
2	積極的な社会参加
3	コロナ禍で地域との関わりができなかったので、広げていきたい。
4	町内会との結びつきを深める。
5	情報の共有
6	地域との関わりが増えると良い。
7	協働する体制
8	地域においても、学校からの広報物等を通じて学校に関心を持っていただき、子どもたちの活動に支援していただきたい。
9	学校行事、教育活動への参加、協力
10	様々な情報の共有と連携
11	ボランティアとしての支援

12	家庭と地域、学校とがお互いに子供たちの成長課題を共有して、解決に向けて連携して取り組んでいくことで、心身ともに健やかな子供たちが育っていくものと思います。今以上に地域の子ども達への関わりが大切になってくるものと思います。
13	同じ地域にある施設や関係機関との連携・交流
14	教育活動へのボランティア参加
15	子どもの見え方に関する相談機関として、盲学校があることを知ってほしい。
16	積極的な参加意識・姿勢
17	学校、家庭と協調しながら、活性化を目指そうとする積極的な関わり
18	高校生が関わることのできる活動があれば情報提供をお願いしたい。
19	学校の教育活動への理解と積極的な支援。
20	教育活動への積極的参加
21	登下校時のマナーや部活動の際の周辺への様々な影響について、「青森市の子どもを地域で見守り育む」という意識をもって捉えて欲しい。
22	学校への協力の継続
23	他園との交流・地域の方々や小学校との連携
24	協力
25	散歩や何気ない機会を通して、互いに声を掛け合っている。顔の見える関係で、園を知って頂き、良好な関係作りを図っている。地域の方には、園児達によく声をかけてもらい、好意的に見てもらっているの、ありがたい。
⑤その他	
1	家の前の雪かきをお願いします。
2	教育事務所と県教委との連携
3	若い人が住める場(コンパクトシティの条例により新しい若い人が住めない)
4	挨拶を交わせること。
5	持続可能な街づくり
6	資金面での援助や支援
7	子ども主体の保育を実施する園が増えていくこと。
8	子育てに対する不安感や負担感を親が感じているため、親に対する相談やカウンセリング、情報提供など支援を行う専門家や機関を増やす、またそれらがWEBで行うことが出来たら便利だと思う。
9	理想の子育て環境より、地域の実情や現代の社会情勢に合った取組を増やして欲しい。
10	ゲーム、TV等のない生活の場があったら。(親は子を預けないでしょうね。)
11	子どもが3歳を迎えるまでは家庭で保護者が育てられる社会を！11時間も幼い子を預けるような社会は間違っている。親子で過ごす時間とお金を保障すべきだと思う。
12	子どもの成長を町内会など地域が見守り育てる環境作りをしてほしい。また、それを市や県などの機関が支援してほしい。

問5【記載内容】

①各団体などへの経済的支援に関すること	
1	子ども支援をする方に、何らかの補償をしてほしい。ただただボランティアで無償であれば、支援する方が自費出費する事も多いので、結局継続できなくなってしまう。
②子育てに関する経済的支援に関すること	
1	未就学児童に対する給食費の無償化
2	3歳以上の園児に対する副食費を早急に無償化すべきです。
3	認可外施設は補助金がないため、保護者が利用する際、負担額が多いため、本当に必要としている方(母子家庭の方や、その他家庭に事情がある方等)、保護者の負担をもっと軽減できないものかと、日々保育、保護者と話をしていると感じています。
4	世帯収入等関係なく、子育て者全てが平等に利益を受けられるようにしてほしい。皆、納税しています。

③相談窓口の整備・充実に関すること	
1	近年、子育てに悩み、不安を抱える家庭が増加しているように感じる。今後は、相談等の件数も更に増加すると予想されるが、それに対応できる体制づくりが急務である。
2	地域に相談もできず、困っている方が少しでも減るような効果的な取り組みがあるといいなと思っています。
④情報の提供・発信に関すること	
1	子育て支援開催の案内チラシを置いてほしいとお願いしても快諾してくれる施設が少ない。
2	本当に困っている家庭に支援が行き届くためには、行政が情報を行き渡らせる工夫が必要。自分から情報を取りに行けない人のために、健診や役所を活用しながら、直接働きかけ、みんなで見守る体制づくりが必要。今の保育所は残念ながら人手も時間も不足している。そこに特化した専門家がいるといい。
3	今後とも、様々な情報の発信等、ご協力よろしく申し上げます。
4	青森市の福祉館を活用させていただき、子育てひろばを開催したいと考えています。情報発信が自力(チラシや自園ホームページへの掲載等)になってしまうので、地域の福祉館などのイベント情報を、広報あおもりや各福祉館のホームページなどで利用する地域の方にお伝えできる手段があるとありがたいです。
5	子育て世帯からの意見を取り入れた取り組みや、広報・PR方法の工夫について、更に力を入れてはどうか。
6	保護者への子育てに関する情報提供(SNSによる発信)
5	障害児保育等の情報や支援に関することを、もっと知りたい。
⑤関係機関との連携に関すること	
1	私共保育施設は保育の理念に基づき、家庭や子どもと真しに向き合い、課題を見つけ、それを解決しながら日々保育に携わっています。校種間連携も今年度より本格的に始まりました。子ども・子育て支援については現状で良いのではないかと思います。
2	不登校の家庭・保護者への支援、インクルーシブ教育に基づいた特別支援の児童・生徒への家庭支援等、もはや学校だけでは対応できない支援をお願いしたい。 →ソーシャルワーカーを各校に配置していただきたい。
3	今後も情報を共有しながら進めていきたい。
⑥行政・教育に関する意見・要望	
1	自園の業務で精一杯の状態、何かを求める為にこちら側に物事を丸投げしてほしくないです。何か決める時には、相談して頂きたいし、今度からこうすることと、従わざるを得ないやり方だけはしないようにお願いします。
2	家庭教育は家庭で行うべき！各校に子ども・子育て支援員を配置し、在籍児童の保護者に研修を行う。1時間単位、年間6単位、小学校6年で36単位を長子の入学とともに義務付け、親学カリキュラムを取得させることで保護者の資質が向上する。保護者として学ぶべき子育てのマナーや社会ルール、学校への協力、提出物、福祉面、教育面や法律面でも様々な学んでいただく！「青森親学プログラム研修の単位取得の義務化」
3	(敢えてあげるとすると) 学校のスピード感にある程度合わせた対応をしてほしい。例えば、ヤングケアラーの疑いのある生徒がいた場合、すぐに相談したいと考えていても、2~3週間後の対応になることが多い。 明日、明後日の対応を学校は考えることが多く、そのスピード感のある程度共有したい。
4	この調査について、教育委員会は通しているのでしょうか？ 公立小学校の校長として、どこまで回答すればよいのか悩みます。個人的な意見でよいとなれば、「学校長」としての立場をはなれてしまいますし…。問4については、以上から回答することができませんでした。申し訳ありません。
5	・入所児童のメールでの案内 ・委託費請求書の提出をメールで出来るようにしてほしい

6	今回のアンケートの質問は、アバウトすぎるかなと思います。
7	経済的、精神的、時間的な余裕がなく、将来の生活に不安を感じる中で、子育てや子どもを持つこと自体に後ろ向きな気持ちになっている人も多いと思うので、経済や雇用情勢を立て直し、安定した生活が出来るようにしてほしい。
8	部活動の地域移行、クラブ化を考えたとき、地域の受け皿となる組織や体制の整備等、やるべき課題はまだあると思います。子どもが活躍する、それは保護者も望んでいます。それが実現できるよう、市としても体制を整えてほしいと思います。
9	支援が必要とする人には、その人に合った支援を(声掛けや援助)、そして支援の声が上げられない人にも寄り添い、サポートしていく体制が必要だと感じます。
10	最近、情緒の不安定な子供が増えてきているのではないかと感じている。そのようなことが生じている背景として「三つ子の魂百まで」という古人の教えが忘れ去られている現状があるような気がしてならない。せめて、乳幼児とその保護者が、互いに落ち着き安心できる中で、肌で肌を感じる触れ合いを重ねられれば、少しは改善されるのではないかと思う。時間と場所と精神的ゆとりが必要になってくる。しかし、若い世代の多くの家計は火の車で、そんな余裕は遠い先の話である。だからこそ、子育て世代への支援を本気で考えるべきだし、そのための財政的措置が、これまで以上に求められているような気がする。
11	子どもも親も孤立させない支援体制の充実を図っていくことが必要だと考えます。
12	雪国の青森。屋内の体をいっぱい使って遊ぶ場所があったら良いと思います。サンドームなどはクラブチームのものになっています。自由な空間が欲しい。
13	市の積極的な介入によって、幸せを感じる人々が増えることを願っています。学校として協力できる部分については、大いに尽力していきたいと考えています。
14	こどもまんなか社会という考えは、すでに、こども権利条約等で示されているが、本当の意味でのこどもの支援、子育て支援とは何かはずれているような気がする。小児科、乳幼児健診等に関わる保健師、保育施設等の情報共有。市による病児保育施設の増設と運営。
15	家庭内の問題(夫婦間トラブルによる面前DVや養育に関する問題)については学校以外の機関が積極的にかかわっていただきたい。面談、情報提供、追跡調査、資料の提供等、学校の負担が大きすぎる。
16	高齢者、障害者を含め、広い視点で福祉全般を充実させ、住みよい街づくりを続ける。
17	子育て支援を手厚くするあまり、親の子育てに対する責任感がなくなっていると感じるので、親への指導をお願いしたい。
18	子供の指導に関する困難さが多様化する中で、担任一人で抱え込まないようにするためにも、人員がほしい。
19	昨今、小中学校の部活が廃部となりクラブ化になっています。今まで教諭の方々の負担となっていたことの対応策と思いますが、部活、スポーツをしたくても出来ない子ども達の増加を懸念します。民間クラブに所属できない子ども家庭は有料、送迎時間に余裕がないなどの理由で諦めなければならず、子どもの健全育成の格差がここに生じてしまう恐れがあります。行政と地域が連携し、民間コーチ等の斡旋や仕組みから検討し放課後部活動の再生への取り組みが必要ではないでしょうか。
20	「こども誰でも通園制度」が今ひとつぴんとこないなので、令和6年度から実施するのであれば、説明会が必要ではないかと思います。
21	検診を各年齢ごとに行ってほしい。また、検診内容を保健師等から情報提供して欲しい。
22	家事代行や育児ヘルパーを自治体で派遣するなどの仕組みがあればいいと思います。
23	教育に関する予算を拡充してほしい。
24	子供が家族と一緒に過ごせる時間や空間、イベントなどを企画。
25	放課後児童会への支援の充実
⑦障がいのあるかた、医療的ケア児への支援に関すること	
1	発達障がい等が疑われる子どもへの支援の充実(子ども本人、保護者、幼稚園、保育園、認定こども園に対しての情報提供、支援など)、子育て支援員の継続。

2	特別支援教育支援員の複数配置等
3	発達障害児(疑いの子)に対しての保護者への伝え方に苦心しています。発達障害に関しての理解と早期対応の必要性を伝える(発信)していくことが大切だと感じています。
4	グレーゾーンの子が増えてきているが、療育施設が足りないように感じる。支援が必要な子と診断されても、スムーズに施設が見つからないことが多いため、そこを充実させてほしいと思う。
5	発達障害他、特別支援を要する子どもが多い中、福祉や医療が、より介入しやすくなるシステムになると良いと思います。
6	配慮を要する児童及び保護者のための支援員等の学校配置
7	医療的ケア児や障害児の保育単価の上昇
8	障害のある子ども育てやすい環境づくり、支援の体制づくりをお願いします。
9	・小学校等への支援員の数を増やしてほしい。 ・早期の教育相談等実施のため、障害を有する幼児の情報収集に努めているが、在籍に気付けないことがある。早期に情報共有ができるような連絡網を構築できるとよい。
⑧少子化対策・子どもを生き育てやすい環境に関すること	
1	超少子化対策
2	少子化が進み、子育て支援サークルにも集まる数は激減している。園児募集にもつながるので、宣伝など保育者の負担が大きくなっている。
3	子育て家庭を他から呼び込むような取り組み。地域で子育てに手厚いと思ってもらえるような子育て環境の充実。
4	出産や育児がしにくいと思う理由として、経済的金銭的負担の大きさ、社会や職場からの理解や支援の不足だと思います。住む地域の安全性、いろいろな施設が充実していること。例えば、天候に左右されない室内の遊び場、医療機関が充実しているなど。
5	少子化をどのように打破していくかが最優先事項。成人式ならぬ三十路式(25歳～35歳)を行政で行い、人気アーティストなどのイベントを介しながら出会いの場を設け、飲食店の割引券を配布するなど、地域社会にも貢献できる新しい日本国儀式の定着を目指しながら思い切った施策を期待します。
⑨施設(認定こども園、幼稚園等)の職員の処遇改善に関すること	
1	保育士(パート職員)の時給をあと50円上げたいのですが、運営費だけでは足りず…です。保育士以外の調理員(パート)も同様です。財源はどこからと聞かれると難しいでしょうか…?
2	私たちは最低の基準の下で、地域の子どもたちに対して保育を行っています。在園児やその保護者以外への支援をするには、そのための人員が必要であり、そのための収入が必要になります。
3	保育士確保のシステム構築
4	保育士不足が問題となっているため、満足のいく保育ができないことが多い。子ども達の健やかな育ちのためにも人材の確保が必要である。
5	保育士の(国の)配置基準以上の人数の確保。京都や横浜のように、市で取り決め多く配置できるようにしてほしいです。処遇改善の金額を増して、保育士不足を解消してほしいです。
6	保育士の確保、処遇の改善
7	子育て支援を積極的には思うものの、実際は園の、現場の人材確保で精いっぱいになっている。働き手をもっと欲しいと思っても、経営者がぎりぎりの人数しか雇い入れないためどうにもならない。
8	園児が減少してきていることも問題ですが、保育士もいません。処遇改善もしていただいています。が、まだまだお給料は安い。支援するにも人がいないと何もできないので、お願いしたいです。

9	不適切保育が注目を浴びる中、保育の現場に向けられる目が非常に厳しくなっています。このままでは、不適切を意識しすぎて、きちんとした保育や教育ができなくなってしまうのでは無いかと心配しています。また、求人を出しても応募はほとんどなく、学生も県外へ就職してしまい、いつ職員数が足りなくなるか不安です。子育て支援も重要ですが、保育現場で働く職員の支援についても、検討していただくと非常にありがたいです。
10	子育て支援は積極的に実施していきたいと思うが、そもそも保育士や支援に携わる人、スタッフ不足の解消が課題かと思う。介護同様、そもそもやりたい！という人が全体的に減ってきているのでは？と思います。
11	子どもの育ちや家庭を支える教員たちのさらなる処遇改善を望む。まだまだ社会の理解が足りない。職業として低く見られている。
12	子どもの最善の利益、と言いますがそれを実行していくためには、働く保育士が安心して仕事をしていけるような環境が無いと不可能です。「運営費が足りないから」と、発達障害児やグレーの子どもが増えている現状があっても、保育士定数ギリギリの人数で保育をしている所が多く、子どもたちに手厚く関わる事が難しい場面がたくさんあります。本気で子どもの権利を考えていけば、保育士の権利も同時に考えていくべきです。言葉で簡単に「こどものために、こどものみらいのために」…など世の中は言いますが、私たち保育士ももちろんそれを願って仕事をしています。ですが、何かをやりたいと思っても、人がいないと実現できません。保育士の心が疲弊してしまって、どんどん離職者が増えると、その負担は残った保育士にのしかかっています。是非、運営側にも「保育士定数よりも余裕を持った人材配置を」のような働きかけをお願いします。働いている職員は何も言えません。助けて欲しいです。
⑩その他	
1	青空保育、里山での保育があったらいいね。(再度…親は子を預けないでしょうね。)
2	各団体etc”丸投げ”の企画、単発なものが多いと感じます。
3	本園は未就園児教室を年間約20回開いています。子どもたちや保護者の方々に喜んでもらえる計画を立てて行っています。気を付けていることは子どもたちが原因で保護者同士のトラブルがないようにしたいと思っています。
4	大人も子供も、文句ばかり言わず、認めてほめる様になってほしい。
5	早期からの本人や家族への支援について、センター的機能を提供しますので、どうぞよろしくお願いいたします。
6	・子どもは国の希望です。心豊かな人間(感性と考える力)にまた、これからの日本の社会を担う社会人を育てていく教育は、非常に大事なことだと感じています。そのことと同じように、子育て中の経験の少ない母親・父親に子どもを育てる喜びを感じることができる支援が必要であると思います。預けることで、子育ての精神的ストレスの軽減ばかりが強調されているようなので、子育ては楽しい視点も強調できたらいいのではと思っています。 ・当園は、幼稚園として満3歳～5歳児までの教育をしっかりと自負しておりますが、0歳～2歳児については、経験不足だと思っています。施設として、子ども園等の一律化ではなく、専門性を活かした、年齢別、分散教育の方が子どもたちを伸ばすことができるのではと考えています。
7	今、保護者が何を必要としているのか、分からない。
8	生まれてきた全ての子どもが、普通な生活を送れるとともに、将来に夢と希望、志をもって、その実現に力を注げられる環境が整えられたら素晴らしいと思います。
9	地域のコミュニケーション作りに努める。
10	青森市として人を思いやる気持ちを持つ人を育てるべきだと思います。そこから始まると思います。

11	学校現場は慢性的な教員不足により、一人一人の教員の負担が増加しています。また、少子化により、子どもの数が減り、家庭数も減り続けています。地域の中心である学校の存続が危ぶまれている現状を多くの住民が理解し、少しでも学校が抱える課題の解決に、地域で力を支援していただきたいです。
12	学校と家庭と地域のそれぞれの役割を理解してともに手を携えて向かっていくことができれば効果がでてくると思っています。それぞれが相手のことを批判したり、相手の責任を追求だけしては効果があがらないと思うのですが…。なかなか難しいですね。
13	中学校教員の働き方改革のためにも、地域が果たす役割を充実させてほしい。
14	退職した高齢者等と子供の活動を結びつける企画や人材バンクの設置が進められると良いのでは。
15	少子化で親の目が届きすぎ、手の貸しすぎや子どものいいなりにって間違ってもただ止めるだけではっきりと何が悪いのかを伝えられない保護者が多い。子どもに任せっぱなしが多いので選択肢を与えられるくらいたくさん経験させ心身共に強くして欲しいです。周囲の人々とも積極的にコミュニケーションをとって欲しいと思います。子育て支援の子どもたちを集めるのが年々難しくなっているのを感じます。